

# 奈良梨陣屋跡(比企郡小川町)

ならなしじんやあと

築城年代:天正18年(1590年)、築城者:諏訪頼水

ここは八和田神社参道入口/この参道を進むと八和田神社があり、その一帯が奈良梨陣屋跡とされる



この前方の木々の辺りが八和田神社





正面奥に八和田神社の社殿が見える





右手を見るとこんな池があり、当時の水堀の名残りかもしれない





さて、境内を見てみよう





拝殿正面/南側から見たところ











右手を見ると説明板が立っている



# 八和田神社の大スギ 諏訪神社の鰐口

大字奈良梨

ならなし

大スギは、目通り五・六七メートル、樹高三〇メートルを測り、形状から「逆さスギ」とも呼ばれています。天正十八年（一五九〇）に奈良梨に入った諏訪頼水が、所領を定める際に信州諏訪（長野県）から投げたスギがこの地に刺さったという伝説があります。

〔昭和三十八年三月十二日 町指定〕

鰐口は、直径三二・五センチメートル、厚さ一二・〇センチメートル。陰刻された銘文によると、延徳三年（一四九一）に高坂郷（東松山市）常安寺に奉納されたもので、弘治三年（一五五七）に鉢形錦入（寄居町西ノ入）の新井佐渡守によって諏訪神社に再寄進されました。裏面には『華師経』を出典とする偈（詩句）が刻まれています。諏訪神社は明治四十年（一九〇七）に八和田神社に改称されました。

〔昭和五十三年三月十七日 町指定〕



（表）武州入西郡高坂郷医王山常安禪寺

住持比丘大成叟永順置之

延徳三年亥<sup>（年）</sup>季四月初八日

（裏）我此名号 一經其耳

衆病悉除 身心安樂

（内圈）弘治三年丁巳七月廿六日 敬白

（側面）武州男食郡鉢形錦入新井佐土守<sup>（マツ）</sup>

奉諏訪大明神寄進施主者



小川町教育委員会



これが「八和田神社の大スギ」/上部が災害で折れてしまったようだ



さて、境内を出て北東角へ来ると説明板が立っており、その後ろには堀跡と土塁があった





町指定史跡

ならなしじんやあと

## 奈良梨陣屋跡

平成8年4月19日指定

八和田神社 東側に残る堀と土塁の一部は、戦国時代から江戸時代にかけて築かれたものと思われます。当時、鎌倉街道上道の宿駅として栄えた奈良梨において、現在の八和田神社の境内地になんらかの施設がおかれていた可能性があります。

平成8年に実施した試掘調査の結果、この堀と土塁は平行してほぼ一直線に走っていることがわかりました。堀の断面形は「箱葉研」と呼ばれる中世の城や館を取り巻く溝に非常によく似ていました。土塁には、幾層にも丁寧に積み上げた状況が確認されました。あいにく時代を決定する遺物は出上りしませんでした。以上のことから、周辺文化財・史跡等の総合的な見地で、広義の陣屋跡として指定されたものです。

南方向を見たところ/右手の土塁に並行して堀跡が延びている









その土塁と堀跡を南側から北方向へ見たところ/この辺りの土塁は高さが無くなってしまっているようだ





左手を見ると先程見た水堀が見える





説明板のある北東角に近づくにつれて土塁の高さははっきりしてくる





その土塁上に登って北東角を見たところ/クランクして左手(西方向)に土塁が回っているのが見てとれる





アップで見る





これは西側に延びる土塁上で西方向へ見たところ/土塁は前方で更に左手(南方向)へ回っている





左手(南方向)を見たところ/北西角でクランクした土塁は南方向へ延びているのが見てとれる





これが北西角を見たところ/左手は東方向へ延びる土塁/右手が南方向へ延びる土塁



右手の南方向へ延びる土塁を見たところ/途中で高さが無くなっている





その土塁上から南方向を見たところ





その土塁を南側から北方向に見たところ/手前は土塁が消滅してしまって高さが無くなっている





少し北西角方向に戻って見たところ/この辺りは高さが残っている





もう一度北西角を見る





そこから左手の東方向へ延びる土塁を見たところ





アップで見る





その土塁上から東方向を見たところ





これはその土塁を東方向から西方向へ見たところ





左手を見ると土塁に窪みがあり、道路と境内の通り道となっている/前方に境内の建物が見える





そこから境内に入って振り返ったところ/この木は先程の「八和田神社の大スギ」





左手を見ると北側の土塁が本殿の後ろを西方向へ延びているのが見てとれる





アップで見たところ





右手を見ると土塁が右手(南方向)へ延びてだんだん高さが無くなっているのが見てとれる





アップで見たところ





ここの北東角の土塁上で西方向を見たところ/手前の窪みは境内と道路との通り道になっているところ





前方の土塁を見る





さて、これはもう一度境内で社殿の左手に土塁の北西角方向を見たところ





アップで見たところ





## 参考ホームページ

<http://iyokakuzukan.la.coocan.jp/002saitama/172naranashi/naranashi.html>

<http://www.geocities.jp/boatfisherman832/page027.html>

<http://www.geocities.jp/tsukayan0112/subdir-siropage/naranasi.html>

<http://ckk12850.exblog.jp/8381343/>

<http://www.hb.pei.jp/shiro/musashi/naranashi-jinya/>

[http://www5d.biglobe.ne.jp/~hatabo/meijyou/12\\_Saitama/naranashi/index.html](http://www5d.biglobe.ne.jp/~hatabo/meijyou/12_Saitama/naranashi/index.html)

<http://blog.goo.ne.jp/hanako1033/e/332726d97f28059739886a087c58af4a>

<http://www42.tok2.com/home/hakubutukan/musashi/naranashij.html>

<http://www.hb.pei.jp/shiro/musashi/naranashi-jinya/thumb/>

[http://outdoor.geocities.jp/kojyo\\_annai/3\\_kanto/9\\_saitama/naranasi\\_jinya.html](http://outdoor.geocities.jp/kojyo_annai/3_kanto/9_saitama/naranasi_jinya.html)



